

2025年6月30日

富山県教育委員会

教育長 廣 島 伸 一 殿

富山市千歳町1-2-3

富山県高等学校教職員組合

執行委員長 中 山 洋 一

県立高校の募集生徒数・学級編制に関する陳情

富山県教育の発展のためにご尽力いただいていることに敬意を表します。

6月12日の県議会本会議において、廣島教育長は、公私比率が撤廃されたことを踏まえ、来年度の県立高校全日制の募集定員について「新しい考え方で検討する必要がある」と答弁しました。しかし、昨年6月の教育警務委員会で報告のあった、「令和7年度学級編制の募集定員について（中学校卒業予定者数及び募集定員の目安、今後の中学校卒業予定者の推移などを含む）」に当たるものが、今回の6月県議会には報告されませんでした。このため、具体的な検討状況は現時点で全く不明であり、開かれた検討の進め方が昨年度よりも後退しています。

今年度末の中学校卒業予定者数が、昨年度よりも約400名減ることに対して、募集率、募集定員総数をどうするのか。昨年度、今年度と拡充してきた少人数学級を来年度どうするのかなど、肝心の部分が全く見えていません。

学区ごとの生徒数増減のバラつきに対して学区ごとの募集率、普通科割合をどう均衡させるのか。県全体の生徒数が少なくなる中、40人ずつ学級数を減らすやり方では、学区ごとの募集率、普通科割合を均衡させることが不可能です。その結果、県内どこに住んでいても学習の機会を平等に保障することができなくなってしまいます。生徒の通学手段である鉄道やバスの便数・路線の維持・存続が深刻な危機に直面しており、県内各地にバランスよく学科を配置することがこれまで以上に重要になっています。生徒の学習権を守るために、生徒数減への対応として、少人数学級を段階的に拡充する方法で、教育条件を充実させていくべきです。

2038年度を見据えた高校再編の検討が進められていますが、「目指す姿」が全く具体的に描けていないにもかかわらず、13年後の「大規模校の設置方針」の検討だけを切り離して先行させているのはあまりにも不合理です。2校を1校にという意見が飛び出すに至っては、県東部と県西部で配置を考えるとという枠組みさえも崩すものであり、議論が迷走の度合いを強めていると言わざるを得ません。数合わせの大規模校設置の検討を一端凍結し、来年度の募集生徒数、2028年度にこだわらないI期の再編の検討に全力を傾けるべきです。

県内どこに住んでいても、学習の機会が保障されるよう、来年度の県立高校募集定員をできるかぎり減らさない対応が必要です。昨年度から踏み出された少人数学級の歩みを着

実にすすめていただきたく、下記の事項を陳情します。

記

- 1 県内どこに住んでいても学習の機会が保障されるようにするため、募集率を引き上げて、来年度の県立高校募集定員を減らさないこと。特に、学区内の中学卒業生が昨年度59名増えたにもかかわらず、今年度の募集生徒数が1名も増やされなかったために募集率が引き下げられた新川学区に配慮すること。
- 2 募集定員をやむを得ず減らす場合は、学級減ではなく学級定員減で対応すること。
- 3 昨年度、今年度と拡充してきた普通科を含む少人数学級、従来実施している少人数学級を決して後退させず、拡充すること。
- 4 今年度、県内中学卒業生のための募集定員数(6,024名分)の内数で設定されている南砺平高校の全国募集6名の定員枠を、県内生徒の学習権を保障するため、募集率によって算定された県全体の募集定員数の外数にすること。
- 5 学区間の募集率の著しい不均衡を速やかに是正すること。(最高の砺波学区74.8%と最低の新川学区の67.2%の格差は7.6ポイントに及ぶ。)
- 6 学区間の普通科割合の著しい不均衡を速やかに是正すること。(最高の砺波学区68.8%と最低の高岡学区59.6%の格差は9.2ポイントに及ぶ。)
- 7 公私比率が廃止されたもと、私立高校の募集定員の設定と実際の運用が適正なものとなるよう(入学者数が募集定員を大幅に上回ることがないように)、県が責任をもって監督すること。
- 8 公私立高等学校連絡会議の不透明な運営は県民に説明のつかないものであるから、会議を存続させる場合は、必ず公開とすること。

以上

2025年6月18日

富山県議会

議長 武田 慎一 殿

**県内どこに住んでいても、学習の機会が保障されるよう、
来年度の県立高校募集定員を減らさないことを求める陳情**

陳情者 富山市千歳町1-2-3
富山県高等学校教職員組合
執行委員長 中山 洋一

(陳情の趣旨)

県教育委員会は県立高校全日制の募集定員について、今年度82名の減を学級減ではなく、普通科を含む6校(富山西、八尾、中央農業、伏木、南砺福野、砺波工業)の学級定員の減と南砺平高校の全国募集枠6名の新設で対応しました。教員配置の充実を求めた私たちの請願が12月県議会において全会一致で採択されたことが力強い後押しになり、教員定数について法定数の減少を補う16名分が県単独措置されました。国の教育政策が一層充実するよう様々な方面からの働きかけを続けるとともに、当面、県の努力で子どもたちに豊かな教育条件を保障していく施策が必要となっています。

今年度末の中学校卒業予定者数は、前年度比402名減の8,107名です。その内訳は、新川学区が1,472名(前年度比172名減)、富山学区が3,392名(122名減)、高岡学区が2,245名(162名減)、砺波学区が998名(54名増)です。公私比率は廃止されましたが、昨年同様の県立高校全日制の募集率70.8%をこれに掛ければ、来年度募集定員の目安は、新川1,042名、富山2,402名、高岡1,589名、砺波707名となり、現高校1年生との募集定員増減の目安は、新川63名減、富山101名減、高岡121名減、砺波1名増の全体で284名減となります。この生徒数の減少に対して、県内どこに住んでいても、学習の機会が保障されるよう、来年度の県立高校募集定員をできるかぎり減らさない対応が必要です。昨年度から踏み出された少人数学級の歩みを着実にすすめていただきたく、下記の事項を陳情します。

(陳情の項目)

- 1 県内どこに住んでいても学習の機会が保障されるようにするため、募集率を引き上げて、来年度の県立高校募集定員を減らさないこと。特に、学区内の中学卒業生が昨年度59名増えたにもかかわらず、今年度の募集生徒数が1名も増やされなかったために募集率が引き下げられた新川学区に配慮すること。
- 2 募集定員をやむを得ず減らす場合は、学級減ではなく学級定員減で対応すること。
- 3 昨年度、今年度と拡充してきた普通科を含む少人数学級、従来実施している少人数学

級を決して後退させず、拡充すること。

- 4 現在、県内中学卒業生のための募集定員数（6,024名分）の内数で設定されている南砺平高校の生徒全国募集6名の定員枠を、県内生徒の学習権を保障するため、募集率によって算定された県全体の募集定員数の外数にすること。
- 5 学区間の募集率の著しい不均衡を速やかに是正すること。（最高の砺波学区74.8と最低の新川学区の67.2%の格差は7.6ポイントに及ぶ。）
- 6 学区間の普通科割合の著しい不均衡を速やかに是正すること。（最高の砺波学区68.8%と最低の高岡学区59.6%の格差は9.2ポイントに及ぶ。）
- 7 公私比率が廃止されたもと、私立高校の募集定員の設定と実際の運用が適正なものとなるよう（入学者数が募集定員を大幅に上回ることがないよう）、県が責任をもって監督すること。
- 8 公私立高等学校連絡会議の不透明な運営は県民に説明のつかないものであるから、会議を存続させる場合は、必ず公開とすること。

以上

定員の〇は1人単位数

158学級中、48学級 = 30.4%

令和7年度 富山県立高等学校全日制課程第1学年募集定員

学校名	学科名	募集定員		備考
		学級	定員	
入善	普通	4	140	自然科学コース 観光ビジネスコース
	農業	1	30	
桜井	普通	3	120	帰国生徒5
	土木	1	40	
	生活環境	1	40	
魚津	普通	4	160	
魚津工業	機械	1	35	電子機械コース 化学工業コース
	電気	1	35	
	情報環境	1	35	
滑川	普通	2	80	
	農業	1	40	
	商業	1	40	
	海洋	1	40	
上市	総合	4	150	
雄山	普通	2	80	
	生活文化	1	40	
中央農業	生物生産	3	73	作物科学コース 動物科学コース 園芸福祉コース 環境緑化コース 生物工学コース 食品加工コース
	園芸デザイン			
	バイオ技術			
八尾	普通	4	150	福祉コース
富山西	普通	4	140	
富山	普通	4	160	探究科学科
	理数科学 人文社会科学	2	80	
富山中部	普通	4	160	探究科学科
	理数科学 人文社会科学	2	80	
富山北部	普通	3	120	体育コース約40
	くすり・バイオ	2	80	
	情報デザイン	1	40	
富山工業	機械工学	2	80	
	電子機械工学	1	40	
	金属工学	1	40	
	電気工学	2	80	
	建築工学	1	40	
	土木工学	1	40	
富山商業	流通ビジネス	2	80	
	ビジネスマネジメント	1	40	
	会計ビジネス	1	40	
	情報ビジネス	2	80	
富山いずみ	総合	4	150	
	看護	1	40	
富山東	普通	6	240	自然科学コース約40
富山南	普通	5	200	国際コース
呉羽	普通	6	230	音楽コース約30

学校名	学科名	募集定員		備考
		学級	定員	
小杉	総合	4	150	
大門	普通	3	120	情報コース
新湊	普通	3	120	
	商業	1	40	
高岡	普通	4	160	探究科学科
	理数科学 人文社会科学	2	80	
高岡工芸	機械	1	40	土木工学コース 環境化学コース
	電子機械	1	40	
	電気	1	40	
	建築	1	40	
	土木環境	1	40	
	工芸 デザイン・絵画	1	30	
高岡商業	流通ビジネス	2	80	
	国際ビジネス	1	40	
	会計ビジネス	1	40	
	情報ビジネス	1	40	
伏木	国際交流	3	90	中国語コース 韓国語コース ロシア語コース
高岡南	普通	4	160	人文科学コース
福岡	普通	3	120	英語コース
氷見	普通	2	80	
	農業科学	1	40	
	海洋科学	1	40	
	ビジネス 生活福祉	1	40	
砺波	普通	4	160	
砺波工業	機械	2	60	
	電気	1	30	
	電子	1	30	
南砺福野	普通	4	140	
	国際	1	30	
	農業環境 福祉	1	30	
南砺平	普通	1	30	*全国募集6
石動	普通	3	120	
	商業	1	40	
合計		158	6,018	*全国募集6 (計6,024)

【備考欄について】

- 「〇〇コース約△△」及び桜井高校普通科の「帰国生徒5」は、定員の内数である。
 - コース名のみは、2年次に開設するものである。
- * 南砺平高校普通科の「全国募集6」は、県内募集定員30の外数である。

学科等区分別募集定員(大学科区分による)

区分	普通	探究科学	国際	農業	水産	工業	商業	家庭	看護	福祉	総合	総計
学級数	82	6	4	6	2	26	16	3	1	1	12	159
募集定員	3,196	240	120	153	60	975	640	120	40	30	450	6,024

- ※ 氷見高校の農業科学科と海洋科学科は、農業と水産のそれぞれに1学級として集計
- ※ 探究科学科は、理数科学科と人文社会科学科の2学科の総称
- ※ 普通科は、「全国募集6」を含めて集計

令和7年度も同様

令和6年度の県立高校（全日制）の規模別・地区別配置状況

学級数/学年		新川地区	富山地区	高岡地区	砺波地区
8学級	(1)		富山工業 (工8)		
7学級	(2)			高岡工芸 (工7)	南砺福野 (普4国1農1福1)
6学級	(7)		富山北部 (普3工2商1)	高岡 (普4探2)	
			富山東 (普6)		
			呉羽 (普6)		
			富山商業 (商6)		
			富山 (普4探2)		
			富山中部 (普4探2)		
5学級	(7)	入善 (普4農1)	富山いずみ (総4看1)	高岡商業 (商5)	
		桜井 (普3工1家1)	富山南 (普5)	氷見 (普2農水1商1家1)	
		滑川 (普2工1商1水1)			
4学級	(10)	魚津 (普4)	八尾 (普4)	小杉 (総4)	砺波工業 (工4)
		上市 (総4)	富山西 (普4)	新湊 (普3商1)	石動 (普3商1)
				高岡南 (普4)	砺波 (普4)
3学級	(6)	魚津工業 (工3)	中央農業 (農3)	大門 (普3)	
		雄山 (普2家1)		伏木 (国3)	
				福岡 (普3)	
2学級	(0)				
1学級	(1)				南砺平 (普1)
学級数	158	29	65	44	20
平均学級数	4.6	4.1	5.4	4.4	4.0